

# 北前船の「西廻り」 航路フォーラム



9月30日、10月1日の2日間、河野総合事務所を会場に、第七回「西廻り」航路フォーラムが開かれました。

はじめに、増澤町長が「南越前町には海の道や陸の道など歴史的な道がある。道で一つになっているこの町のさらなる研究に力を注いでいただきたい」とあいさつを述べました。

1日目は、敦賀短期大学外岡慎一郎教授の「中世敦賀津と今庄関所」をはじめ、日本海事学会会員の安本恭二氏が「但馬の廻船・但馬にみる諸国の廻船」、山口県立宇部中央高等学校の高岡勲教授が「北前船と長州藩」と題し報告に立ちました。

2日目は、広島大学佐竹昭

教授の「近世瀬戸内の航路と交易」と題した報告のほか、元金沢市史専門委員の長山直治氏の講演や専修大学青木美智男教授が総括と司会を務めたシンポジウムが行われました。青木教授は、「今までは北前船を中心に、河野を主とした研究報告でしたが、今回の報告では、陸の道を取り上げて、今庄関所に触れるなど三町村合併の連帯感を持たれたのではないかと思います。今後海、陸、川の道をテーマ



## 大きな成果を得ることができました



河野北前船研究会 右近 了一会長

当初は、北前船の歴史むらとして観光を推進しようと「北前船主の館石近家」をオープンしPRしましたが、観光目当てで

けでは一過性に終わってしまいがちです。そこで、北前船が残した文化・歴史を発掘・保存し、右近家文書の解読にあわせて、全国から北前船の研究者を集めて交流と発信を図りたいと、北前船の「西廻り航路フォーラム」を立ち上げました。

今回は、海の道、陸の道を合わせて考えてみたいと企画し、講師の先生方のそれぞれの地域での北前像を発表していただき、貴重な新しい事実を発見することができました。成果の多いフォーラムであったと大変喜んでいきます。

**北** 前船主右近豪商の活躍は全国的に知られていますが、フォーラムに参加して、先生方の研究報告をお聞きし、大変勉強になりました。

日本海事史学会の安本さんは、北前船客船帳から越前廻船を引き出され、河野の船主の活躍がよくわかり参考になりました。

私は、「敦賀市史」で「港の変遷」を担当した関係で、日本港湾経済学会の研究発表会によく出席しますが、持ち回り会場では、必ずその地域の方の発表があります。河野でも、北前船研究会が結成されており、多くの研究者がいらつしやると聞いています。

地元の方が発表されると、さらにフォーラムが盛り上がるのではないかと思います。(山本勝士さん・上新道)

**北** 前船は、江戸時代から明治時代に、上方と北国筋や北海道方面との貿易に従事した北陸地方を中心とする廻船という程度の知識しかありませんでした。今回のフォーラムに参加して、専門家の研究の深さに改めて敬意

**南** 越前町発足を機に、今まで永年見慣れていた自然や人の姿を一度見直し、理解を深めようと考え、今回のフォーラムに参加しました。

すでに六回を重ねている当フォーラムに、今回初参加の私には想像を超える重厚なものでした。各テーマ別の調査研究資料には、古文書や廻船

フォーラムに参加して

を表しますと共に、これを機会に、一人でも多くの方が、右近家に残る貴重な資料の研究や、郷土の歴史に関心を持たれたら有り難いと思えました。

(藤木幸雄さん・奥野々)

隻数、乗組員数、積石数等の詳細なデータ、客船帳の資料にみられる豪商の実像等が綴られ、各講師からの報告、講演を聞きながら、改めて私たちのふるさとの歴史に感動し、その姿を再認識しました。今後このような企画にはぜひ参加したいと思えます。(平野 太さん・東大道)

**西** 廻り「航路フォーラム」には、誘いを受けて参加しました。幕末から明治にかけて栄華を極めた日本海、そこで活躍した北前船の残した歴史や文化遺産を学術的に検証しようというフォーラムでした。

冒頭の報告は「中世敦賀津と今庄関所」で、中世南条地域の物流体系として命をかけて時代を切り開いた海運と峠越えの陸運で、我が国の夜明けの基礎を担った北前船は、地元の話として大いに興味を持ちました。同時に、先人達の勇敢でスケールの大きな話に口マンを感じ、次回のフォーラムにも、また参加したいと思いました。(齋藤市左衛門さん・鯖波)



**以** 前から、北前船の話はよく聞き、また右近家を見物したことはありましたが、しかし、観光としてはではなく、今回のようなフォーラムで聞いたのは初めて。実に専門的で、講師の方が詳細に調査されたことをもとに報告されました。

今までは、海にかかわることばかりと思っていましたが敦賀津と今庄関所北陸道の物流ルートと関係のあることが

**こ** のフォーラムには初めて参加しましたが、河野北前船研究会の皆さんの研究の深さと全国に亘る研究範囲の広さに感心しました。

また、講師の先生方も古文書を基にして、各時代背景の中で物流と交流、北前船の役割などが分かり易い説明をされていました。

私は、かつて板取宿の木賃宿を改修したとき、古い唐紙戸の下張から、大量の荷駄受取証(板取駅より今庄駅や木の本駅に荷駄を引渡した時の受領証)を発見したことを思い出しました。今回、南条、今庄地区の街道運送や河野浦の海運と合わせ、北陸地方交通の要衝である南越前町を再認識しました。(小山喜一さん・社会)